

蛇田中3年の千葉さん(右から2人目)と市長が防災の大切さを強調しました



「子ども防災サミット2018」開催

石巻市、狛江市、芦屋市が同時通信 災害対応や伝承活動で意見交換



同時中継で狛江市、芦屋市の子どもたちと意見交換



感想を述べる蛇田中3年の穴戸さん

6月16日、会場となった石巻市防災センターの開所を記念して、石巻市と災害協定を結ぶ東京都狛江市、兵庫県芦屋市と3市による「子ども防災サミット2018」を開催。3市を無料通信アプリを使った同時通信によって結び、それぞれの小中学生と市長、大学教授ら計27人が防災学習や伝承活動について意見を交わしました。

首都直下型地震の恐れがある狛江市の女子生徒は、有事に備えた避難訓練や震災遺族との交流から学んだコミュニケーションの大切さについて発表。阪神淡路大震災があった芦屋市の女子生徒は、母校の小学校の伝承活動を紹介しました。

石巻市からは小中学生7人が参加。蛇田中3年の千葉蓮さん(15)は東日本大震災の経験を踏まえて「正確な情報を早く集めることが大事。災害を常に想定し、家族の集合場所を確認してほしい」と発表し、「学校全体を巻き込む活動が重要だと感じた。今回のような話し合いの場が増えてほしい」と感想を述べました。

コーディネーターの目黒公郎東大教授(都市震災軽減工学)は「次の大規模災害時は小中学生が担い手になる。離れた地域同士が支援し合えるよう、情報技術を身につけてほしい」と講評し、これからの小中学生たちの活躍に期待を寄せていました。